

第12回環境教育・環境学習ネットワーク会議議事録要旨

日 時：平成25年11月20日（水） 15:00～17:00

場 所：市役所1号館3階会議室A

出席委員：高橋座長、鈴木副座長、稲構成員、内船構成員、太田構成員、大森構成員、桐谷構成員、小谷構成員、高橋直人構成員、橘構成員、奈良谷構成員、野崎構成員（12名）

事務局：環境政策部環境企画課（本多部長、小澤課長、笠原主査、高橋、山中）

傍聴：なし

◆ 会議の流れ

- 1 開会
- 2 第3期構成員自己紹介
- 3 座長及び副座長の選任について
- 4 報告
 - (1) 相互交流講座（8月23日開催）の実施について
- 5 議題
 - (1) 平成26年度環境情報紙「よこすかECO通信」について
- 6 その他
 - (1) 平成25年度相互交流を生かした人材育成講座について
 - (2) 事務連絡

◆ 第3期構成員自己紹介、座長及び副座長の選任について

当会議の第3期構成員による初の会議となったため、出席者による自己紹介を行った。続いて、会議運営のための座長及び副座長の選任を行い、第2期に引き続き下記2名が選任された。

座長：高橋 弘二 氏（横須賀「水と環境」研究会）

副座長：鈴木 衛 氏（東芝ライテック株）

◆ 報告1の要旨

- (1) 相互交流講座（8月23日開催）の実施について

【事務局から説明】

8月23日に実施された小学校教諭を対象とした「相互交流を生かした人材育成講座」の実施報告を行った。今年度は「横須賀のごみを探る」と題して、資源循環部の協力のもと、南処理工場を会場にごみ処理の知識や、現場職員の声を聞く内容とした。

高橋座長

せっかくの機会だが、残念ながら参加者が8名だったようだ。今日、ご出席の方の中で、橘さん、野崎さんが参加されているので、感想をお聞かせください。では、橘さんお願いします。

橘構成員

私の学校からは私だけの参加だったが、他の学校ではまとまって数人で参加した学校もあった。仲間と声を掛け合って参加できるのがいいと思った。私も学校内で声を掛けたのだが、この時期なかなか人が集まらず、広げていけなかったのが申し訳なかった。人数を見ると、淋しい気がするが、毎年続けていくのに意味があると感じている。相互交流、人材育成ということだが、まさに学校にはなかなか生の声を伺うことができない。こういう機会に現場の方の声が聞けたのは、とても有意義だった。こういう機会を設けていたかないと私たち教員は知ることができないことがあるので、人数が少ないからではなく、こういうことを続けていくことで考えていけたらいいのではと思う。私も二十数年前、小学生の時、南処理工場ができた頃に行ったが、あまり変わってないなと思った。ごみの量がかかり減ったというのが印象的だった。実際、アィクルが出来てどれくらいのもが資源として再生されているのか興味が沸いて、大変有意義だった。

高橋座長

では、野崎さん、お願いします。

野崎構成員

私は、環境教育指導者2名のうち1名として、参加をした。せっかくの機会なので、特に環境教育指導者で生活環境に係っている人たちが、もう少し参加をして、ごみ事情や新しい情報も含めて、手に入れる機会として欲しかった。また、相互交流を生かして小学校の先生たちと意見のやりとりができるので、平日の実施のため仕事を持っている指導者や、夏休み最後の方で学校の先生方も、忙しく、参加しにくいが、もう少し参加者が多いといいなと思った。以前の見学で学んでいても忘れていたことを確認したり、改めて新しい疑問をもったり、それについて答えを得たり、かなり収穫があった。個人としては、大楠地域に住んでいるので、南処理工場が古くなり、新しく長坂に3年後、施設ができるということで、南処理工場のどこがどのように改善された新しい施設が、長坂の方へ建てられるか知りたいというのが参加の動機でもあった。ただ、やはりそこまでは行政の担当部署が違うということで話を伺うことができず、また他の機会に新しい処理工場については勉強をしたいと思う。

高橋座長

ありがとうございました。度々、皆さんの発言の中で、参加者が少なくてもったいなかったとあったが、この点の反省は事務局の方で今後どうするかは考えているか。

笠原主査(事務局)

先生方への研修の紹介は、新年度学期当初となっており、この講座の企画が出来上がった時期はだいぶ遅くなってしまった。市の教育研究所とも、いろいろ話をつめていたが、学校の先生方に情報提供するタイミングが遅く、他の研修の予定を組まれている中で、割り込む形になった。来年は教育研究所と連動を図りながら、先生方に情報提供を図るタイミングを同時期にすると行った改善をしていかないと、参加者を増やすことに結びついてはいかないと考える。中身の企画の良し悪しは参加していただかないと分からないが、まずは周知のタイミングが大事であると事務局として反省している。

高橋座長

来年度はたくさんの方が参加できるような講座になることを願いたい。
皆さんの方からご意見やご質問はございますか。

(質問・意見なし)

高橋座長

ないようなので、議題1へ移ります。

◆議題1の要旨

(1) 平成26年度環境情報紙「よこすかECO通信」について

【事務局から説明】

平成23年度から年4回発行している環境情報紙「よこすかECO通信」について、今後も興味深い紙面としていくため、平成26年度におけるテーマ、および紙面の特集コーナーについて、意見を交わし、来年度の方向性等を決定する。

高橋座長

トライアル事業の一つである「ECO通信」についての説明が事務局からあったが、議論のご意見をいただく前に今の説明に対し、質問や確認事項がございましたらお願いします。

野崎構成員

発行部数の確認をしたいのだが、今までは5,000部、26年度からは3,500部にする理由

は何か。

笠原主査(事務局)

行政センターなどの配付場所1箇所においている部数が多いので、部数を絞り込んだ。郵便で直接送る部分や、先生方に見ていただくための学校などへの部数を減らさずに、「ご自由にお取り下さい」コーナーを見直した。配付先の数そのものは変更しない。

高橋座長

ありがとうございました。

それでは「資料1」の「1. 本日議論していただくことの①4回の表紙テーマの提案、②常設コーナーの提案、③編集作業の提案」に対して、皆さまからご意見、提案がございましたら挙手のうえお願いしたい。

これまでは、事務局が全体案を考えて、構成員に確認を依頼する事務局主導だったが、もう少し構成員の方の意見を取り込んでいきたいという意向があり、今回このような提案になったと思われる。

これまであげられたテーマの内容をみると、特におかしいところや突起なものはなく、妥当なものが表紙のテーマとしてシーズンごとに提案し、書かれている。今までのやり方で我々としては特に問題もないので、これまでどおり、事務局主導でいいのかと思うが、皆さんのご意見はいかがでしょうか。

内船構成員

表紙のテーマについて、これまで環境という広いテーマの中で、これだけの話題を取り上げ、すごいなと思っている。事務局としてはこれからも、まだこのようなかたちで出す予定はあるのか。

また例えば表紙のテーマは今後、環境活動をしている団体を紹介していくというような方向性があれば、今まで2、3ページの内容が表紙のテーマになっていく方向性があると考えます。

笠原主査(事務局)

ご質問のあった、今後のテーマはあるのかというのは、事務局として現在具体案はない。事務局主導でということになった場合は、改めて考え直す予定である。今回こちらから提案させていただいた理由の一つは、皆さんがこれまでのECO通信をご覧いただいた中で、こういうことを出せばいいのではないかというアイデアがあればいただきたいと思っているためである。すでに出ているテーマを違った切り口で再度掲載することも、できると考えている。表紙をトピックにするのは、今のところ、このかたちでいきたいと思っている。ECO通信に関して、何か特に問題になったことはないので、引き続き発行していくという前

提で提案をした。広く色々なかたちで意見をいただきたい。

野崎構成員

「よこすか ECO 通信」を読む人たちを、どういうふうを考えて作るかが大事でないかと考える。私たちのようにいくらか環境に係っている人は手にとって読むが、例えば「まちの中のみどり」これなどは、一般市民が興味をもって読んでいただかないと、効果的ではなく、働きかけた意味合いが薄くなるのではないかと思う。また一方、学校では子どもたちが読むものではなく、先生方が読んで授業や教育に生かしていただくための材料だと思う。色々な対象を考えて作られていることはわかるが、それがかえって、手にとって読む方の思いを深く拾えない、また意識を呼び留めないという理由になっているのではないか。号によって、これは市民向け、これは学校の先生の授業に生かしてもらいたいなど、目的や宛名をはっきりしたかたちの編集方法をとったらどうか。そうすると対象がはっきりして内容がまとめやすく、特徴が出るのではないだろうか。

小澤課長(事務局)

今まで、事務局主導で行政側の気持ちで書いており、偏ってしまっている。色々な専門の方がいらっしゃるので、それぞれの分野、学校の先生、団体、指導者の方からの視点でいただいたものをテーマにしてやっていくのがいいのかと考える。それが、色々な関係の方に見ていただけることにつながっていくのではないかと思う。情報が雑多になっているので、絞り込んでいくことが必要かと思う。

橋構成員

横須賀市内に配っているものなので、横須賀市内のある地域に焦点を当てて、絞っていくのがいいのではないか。例えば今回の号ですと最後のページの「季節の生き物図鑑」に「市役所前」や「久里浜平作川沿い」など、自分が知っている場所が載っているとその部分は目を引く。これが例えば「久里浜地域の環境に係る現状の取組みや課題」など地域ごとにやっていくと学校としては、自分の学区や近くの地域が特集されていると、より見ると思う。また、「自分の地域はいつくるのか」、「こういうものを載せて欲しい」という声が拾えるかもしれない。こういった理由で、地域というものを視点に書いていったら、今までの号でメインになっていた記事も、何度も何度も噛み砕いて2度も3度もおいしいということが出来るのではないだろうか。そういう視点はいかがかなと思う。

高橋座長

環境は季節によっても地域によっても違いがある。
稲先生、学校で配られたらどのように回っていますか。

稲構成員

各学年の先生の中で回覧されていると思う。内容についても、児童、生徒が参加する講座もあるが、それがどこまで子どもたちに投げかけられているかは、その先生がどれだけ環境に興味を持たれているのかによる。実態は把握できていないので、どれだけの人数が参加しているかは分からない。このECO通信が作られたときは、環境教育、環境学習に関しての情報を一元化していきたいということだったので、これはまとまっていいのかと思う。一方、内容が広く浅くになっていて、伝わりにくいという反省があるのであれば、テーマを絞るのもいいのではないかと思う。どちらにしていくかは、また皆さんで話し合っ

高橋座長

今まで、日産の方はECO通信をご覧になったことがございましたか。

桐谷構成員

初めて拝見した。初めて拝見した意見として、普通に面白く自分も参加してみたいものもある。一方で「こういう活動をします」というのはたくさん載っているが、「こういう活動をやりました」や参加した方を紹介するという視点が、あってもいいかと思った。エコな活動ということで、色々な切り口がまだまだあるかと思う。そうしたものを一回並べてみると、もっともっとうる視点での記事を書いたらどうかというアイデアが出てくるのではないか。私も自然が好きなので、そういうネタも面白いですし、例えば日産自動車によくやっているのが、エコ活動と言って、環境標語を集めたり、「我が家のエコ大賞」として「自分の家でこんなエコな活動をしました」というのを募集して、面白いものを表彰したりしている。そのようなものを市レベルでやってみても面白いのではと思う。まだまだ色々なアイデアが出そうな気がする。

高橋座長

いまのアイデアのコンクリートのものは、地球温暖化対策地域協議会などで節電コンクールやみどりのカーテンや、水道局では水のコンクールなどをやっている。

小谷構成員、いかがですか。

小谷構成員

過去のテーマを見ると表紙でぐっと目を引くものに「宇宙ごみ」「どんぐり」などがある。自分の身近なものは興味がわく。今もとてもきれいにまとまっているが、目を引くためには、もう少しキャッチーな要素があってもいいのかなと思う。

高橋座長

皆さんの意見を聞いていると、「全体を対象としたものも必要だが、それだと注目が集まらない。2回、3回見ているうちに興味がなくなってくる。それなら、あるポイントに絞って、例えば、地域や環境の中のあるものに絞って、焦点を当てた作り方も考えていく必要があるかな」という意見になる。

鈴木構成員いかがですか。

鈴木構成員

事務局の苦勞が伺える。地域の紹介もいいが、生物をそこで本当に紹介してしまうと、そこにみんなが行き、乱獲になってしまうかもしれないという考えもある。

E C O通信については、会議内でグループを作って、校正をどうしたらいいかなどと具体的にやっていかないと、更に一步進んだことができないのではないかと思う。

高橋座長

奈良谷構成員いかがですか。

奈良谷構成員

事務局ではテーマが白紙のようなので、日産さんが入られたので、例えば、小学5年生でも自動車をやるのでエコカーの話や、LED電球などのここでしか聞けない産業的なエコの話などがあってもいいのではないか。今まで自然系のものが殆どなので視点を変えるといいと思う。紙の色を変えているが、色がどうなのかと思う。また、線やタイトルなどビジュアル的にもう一工夫あってもいいのではないか。例えば、一部ずつ葉脈を入れてみるとか、そういったのがあってもいいのかなと思う。

高橋座長

裏のページは博物館の学芸員の方が書かれているが、ネタは今後も用意があるか。内船構成員いかがですか。

内船構成員

持続可能かと聞かれたら、色々なところからネタを引っ張ってくるので、継続可能である。今は色々あるネタの中から、事務局サイドの方で表紙としてご提案いただいている内容になるべく近からず、遠からずというものを選んでいく。ネタが尽きてくれば表紙と関係ないものをあげるかもしれないが、まだまだ大丈夫である。逆にどういう分野のどういう内容を読みたいなどのご要望があると、ネタの選定につながる。

高橋座長

これまでの色々なお話を聞いて太田構成員はいかがですか。

太田構成員

まず、どういう年齢層の方が読んでいるのかということと、市民だけが読んでいるのか。学校現場だと横須賀市在住でない方、横須賀出身でない方が多い。私が読むときは横須賀を特化したものがあると面白いと思う。今回の樹木にしても例えば、馬堀海岸のフェニックスは外来種であるが強い品種である。わざわざ外来種を植えているものもある。「そうなんだ」と気付くこともある。色々考えているとテーマさえ決まればニーズマップも作れると思う。

中学校の現場はなかなか環境教育には引き継いでいない。中学校に派遣されている指導者は減ってきているのではと思う。小学校では社会科、理科、総合学習の時間を含めたかたちで探求していくことが可能な時間設定となっているが、中学校では理科といったとき環境について触れていくのは三年生の最後になる。では、総合の学習の時間がどうなっているかと言うと、意外と触れずにキャリア教育を推進している。市内で、環境をやっているところは池上中学校である。そこと小学校のタイアップをもしネタにでき、中学校の先生方が「面白いな」と感じてくだされば、環境教育にとってプラスになると思う。

高橋座長

中学校に関して私も感じたのですが、ここ3、4年は中学校の方へは行っていない。事務局いかがですか。最近「環境教育指導者派遣事業」で中学校へは行っているか。

笠原主査(事務局)

行っていない。当然、小学校と同じように中学校の校長会でPRは行っているが、中学校も実態として環境教育者派遣を取り込められるカリキュラムかは、太田構成員がおっしゃったような現場の状況なのではないかと思います。

高橋座長

まだまだご意見があると思うが、時間の関係もあるので、この件に関しては皆さんのご意見を事務局でまとめていただいて、今後の編集に活かしていただきたい。また何かあれば皆さんに投げかけて意見をまとめて進めていって欲しい。この件に関してはよろしいですか。

内船構成員

ECO通信はホームページに載せているが、購読数、閲覧数は取れていないか。

笠原主査

市のホームページは、ECO 通信のページに関わらず、個別にカウントは取れないようになっている。web ではカラーのものを見ることができる利点はあるが、何件というのは解らない状態である。

高橋座長

それでは、「ECO 通信」に関してはこれで議事を終了する。審議事項はこれで終わりになるが、その他の報告事項は事務局からお願いしたい。

◆その他：(1) 平成 25 年度相互交流を生かした人材育成講座について

【事務局から報告】

今年度の残り 2 講座について、事務局案を提示し、今後の方向性を報告した。

- ①環境活動者向け講座：幼児を対象にした環境教育の実施について
- ②市職員啓発講座：市内企業における環境の取り組み

高橋座長

ありがとうございました。その他、事務局から連絡事項はございますか。

笠原主査(事務局)

事務連絡が 2 点ございます。1 点目は次回のネットワーク会議は、2 月または 3 月を予定している。年明けにご予定の確認のご連絡をさせていただく。もう 1 点は、席上に講演会のご案内を置かせていただいた。ご覧いただきご興味があればご参加ください。

高橋座長

これで今日の予定は全て終わるが、このネットワーク会議の一つの目的は情報交換、情報共有になるので、皆さんから何かありましたらお願いしたい。

鈴木構成員

先程、説明があった資料 2 の「相互交流を生かした人材育成講座について」(2)市職員啓発講座の内容①企業における環境内部監査とあったが、横須賀市は内部監査を実施されているのか。

小澤課長(事務局)

YES、横須賀環境マネジメントシステムで行っている。

鈴木構成員

以前、横須賀市として環境認証を取っていて、それを基にシステムとしてまわっているのか。

小澤課長(事務局)

平成 19 年度に ISO から YES に変わり、自前でやっている。ISO のベースがあったので、そのまま移行できた。

鈴木構成員

もう一つ、冒頭に事務局から座長への名称変更の連絡があった。要綱の第 4 条が「会長」となっているが、座長に変更か。

笠原主査(事務局)

(座長)に変更願います。

高橋座長

他に何かございますか。博物館、何かございますか。

内船構成員

展示の案内をさせていただく。従来、博物館ですと展示内容が「横須賀の〇〇」「三浦半島の〇〇」と限定している部分が多かったのだが、今回もう少し入口を広げるために 2008 年に寄贈いただいた、「世界タマムシコレクション」をベースにして、より広く来ていただけるような、美しさをテーマにした展示を行っている。ただ単に虫だけを並べるだけではなく、きれいな写真を見ていただくなど工夫している。こういったところから昆虫に対する視点、自然に対する視点が変わったらいいなと思う。もしお越しの際にはご感想をいただけると幸いです。

奈良谷構成員

先程の ECO 通信ですが、web 上ではカラーで見られるということだったが、web で見たいとき、カラーで見たいときはどこを見ればよいかを書いてない。せっかくなので載せてほしい。

高橋座長

では、本日の会議はこれで終わりとする。お疲れさまでした。